



みずみどり

2019年 1月15日 第130号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124

板橋の湧き水

板橋区の地図を見ると、北の低いところに荒川がながれ、武蔵野台地との間に20~30mの高低差があります。低地の荒川や荒川に流れ込む支流沿いの崖には、開発されずに残った自然の樹林地がまだあります（今は、支流は蓋がされて緑道になったが、それらしい雰囲気が残っています）。また、崖下には今でも湧き水があります。湧き水は地中にしみこんだ雨の出口で、崖下から出てきます。これが板橋区の自然の特徴です。

平成29年度板橋区環境白書の水辺マップ(下図)を見ると、湧水は赤塚と志村・小豆沢の崖下に多いことがわかります(平成26年度調査、湧水地点は28地点)。



板橋区の環境白書によると湧水地点は28カ所です。湧水地点には地面がジトジトしていて水量が測定できないところも含まれますが、28カ所あるというのは多いと思いますか、少ないと思いますか。

赤塚地域は農地が多く、湧水が赤塚ため池に流れ込み、農業用水に使われたこと、不動の滝で水垢離をして大山詣でに出かけたこと、今はもうない湧水池で釣をしたこと、水がわき出るところで馬も人もわき水で喉をうるおしたこと、サワガニがいたことなど、わき水に関わる話を地元の方からたくさん聞きました。大門地区の区画整理事業では、道路をつくるのに「湧き水が出て、出て」大変苦勞したそうです。それほどわき水が豊かな土地だったのです。

志村・小豆沢地区も湧き水が多いところです。小豆沢公園では崖下から池に水が流れ込んでいます。中山道に面した薬師の泉も清水が湧いたところです（今は出ていない？池の水は井戸水）、旧中山道には清水坂の地名が残っています。また、少し離れた小豆沢神社の崖下にある御手洗不動尊の小さな池の水源は湧水で、水量は減りましたが出ているようです。志村熊野神社の崖下（志村城山公園）にも湧水が出ています。見次公園池は、今は地下水をくみ上げて補給していますが、以前は湧水だけの池でした。



小豆沢公園の湧水池
（野球場の下）

崖下一帯に浸み出して濡れているところや、湧き水の小池がある。この小池から小さなせらぎが池に流れ込んでいる。

志村・小豆沢地域は古くから工場が多く、長い間、排出者が特定できない重金属や有機塩素系化合物による地下水汚染が問題になっていましたが、工場が移転して跡地にマンション等が建ち、すっかり風景も変わりました。時間も経過して地下水汚染問題も終焉したのでしょう。

アメリカで製作された水の不思議というビデオを見たことがあります。「水はめぐる」というテーマで、今ある水は「恐竜が飲んだ水」、「エジプト王も飲んだ水」という歌がくり返し出てきます。つまり今飲んだ水は恐竜のおしっこだったかもしれない、ということです。「水循環」と言葉でわかったような気がしますが、水は私たちの身体も通過して、循環していること、だから水を大切にしようと訴えていて、なかなか説得力がありました。

板橋区には湧水保全条例があります。不動の滝(赤塚8丁目)と滝向かいの湧水(赤塚5丁目)、志村城山公園(志村2丁目)の湧水が指定され、その湧水保全地域が指定されています。湧水保全地域については積極的に地下水を涵養することがうたわれています。でもね。板橋区立の公園はほとんどが草のない固い土で雨水は下水排水口に流れ込んでいます。草が生え、軟らかい土と落葉のある地面を大切にして、雨を浸透させてほしいものです。また、区の施設は率先して屋根雨水を地下に浸透させる雨水浸透施設(写真下 出典は板橋区環境白書)を設置しているのでしょうか。民有地の雨水浸透柵の設置実績はここ数年ゼロ。湧水保全条例 しっかり生かしてほしいですね(坂本 郁子)。

雨水浸透柵の原理：

屋根の縦樋につなぐ。雨水が流入する→底なしの柵の底と横の穴から水が地面にしみ出す→雨量が増えて柵内の水位が上がったら別のパイプから下水に排水するので、水があふれることはない。

- ・ 屋根の水は泥などが混じっていないので詰まりにくい
- ・ 碎石をいれ、透水シートで覆って泥詰まりを防ぐ。
- ・ 柵内に土を入れない。



赤塚トンボ池の水源に階段ができた！

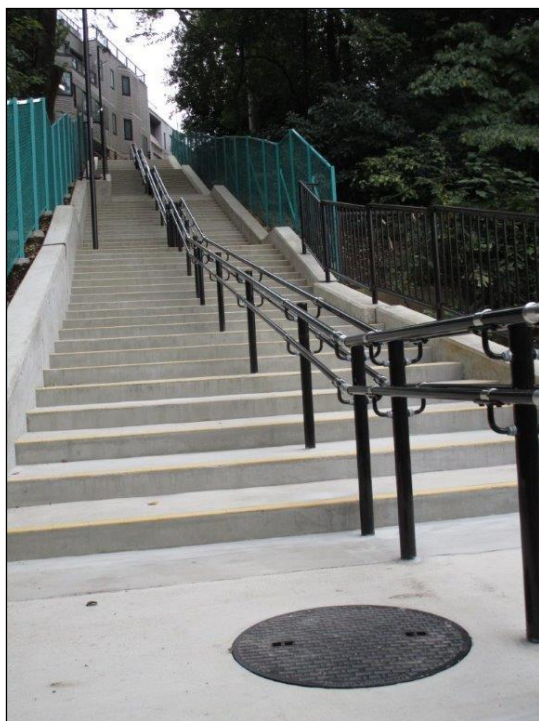


不動の滝向かいの崖線

前ページの写真は不動の滝の向かいの崖です。赤塚公園の樹林地ですが、よく見ると樹林地の間を通るごく細い道が見えます。この道は区有地の道路ですが、人はまったく通らない「けものみち」（あかみち）でした。

昨年6月、「土砂崩れを防ぐため」のコンクリート擁壁工事・・・どう見ても自然破壊的な工事が始まりました。完成後の写真でお分かりのように、安定した自然の樹林地を分断する工事です。しかし、いったん手をつけてしまった工事は元に戻せません。工事は11月に終わりました。なんとも残念な擁壁工事でした。

近隣の渡辺さんの強い働きかけで湧水を下水にながさずに元に戻す工法がとられました。コンクリート階段の下にあるマンホールは以前からあった湧水の集水桝で、ここからトンボ池に湧水が来ています。トンボ池にくる水量は工事前と同じですが、付近の湧水は減ったそうです。



冬のバッタ広場とトンボ池と生き物たち

猛暑の夏から暑さは9月まで続きました。植物は「今しかない」とばかりぐんぐん伸び、繁茂しました。涼しくなるとパタッと成長は止まり、枯れてスカスカになってきます。あんなに茂っていたクズも枯れ、草は花を咲かせ、種をつけ、種を落として枯れていきます。年中草を刈っているまちなかではこのような冬景色は見られません。

バッタ広場で盛んにハンティングしていたカマキリもいなくなっていました。ササ藪に死んだカマキリを見つけましたが、2日後には探しても見当たりませんでした。野鳥のご馳走になったのでしょうか。

バッタ広場は、子ども達の学習の場として活用されることになり、安全に観察できるよう計画的に手入れをしていくことになりました（ある意味で人間優先です）。

冬になると生きものは死んでしまうものが多いですが、ひそかに越冬しているものもいます。生きものも死に絶えたようにみえる冬のバッタ広場やトンボ池で、生きものに出会えると、旧知の友に出会ったようにうれしくなります。

ジョロウグモのこと

10月末には丸々と太ったジョロウグモがあちこちにいました。

2018年11月10日観察会でスタジイの幹にジョロウグモ（メス）と卵を発見（写真左）。



クモは産卵し終って萎んでいます。産卵という大仕事が終わると、力尽きて死んでしまうと思っておりましたが、このクモは数時間後も卵のそばでウロウロしていました。右は翌々日の卵の写真です。ゴミのように見える幹のカケラがついていてクモの糸で押えてあります。卵をカモフラージュしたように見えました。クモはもういませんでした。

11月11日、バッタ広場にはジョロウグモの巣がありました。主のクモがいなくなった網もありましたが、痩せたメスがいる網もありました。最初はこのメスは出遅れたのかな、と話していたのですが、そばにオスもないし、エサになる虫もめっきり少なくなったのになぜいるのか不思議でした。産卵を終えたジョロウグモが巣に戻ったのかもしれませんが。

ジョロウグモは珍しい生きものではないので、注目してこなかったのですが、瀬田さんは「ジョロウグモは腹側から見ると赤いもようが見えるが背側から見ると黄色いこと」を発見。

12月末になってもジョロウグモがいる網がありました。クモのお腹が萎んでいましたが、網はメンテナンスされていました。

クズ

バッタ広場に茂るクズの話。バッタ広場は日当たりが良く、生育旺盛なクズの茂みには、葉を食べる虫、茂みに隠れている虫、それを食べる生きもの達が集まります。冬になるとクズの葉は枯れますが、ツルは生きていて、春になると新しい葉が出てきて、ますます繁茂します。バッタ広場がクズばかりにならないよう冬の間クズのツルを根元から切る作業をしています。



ツルだけ切っても、株の成長点が残ってすぐに発芽するので、タコの足のようにツルが出ているクズの元株の成長点の下で切ると、その株からはツルは出てきません。写真は山田さんが切ったクズの茎の根元。クズの根は食用になると言いますが、根を食べるためにはどれほど掘らなければならないか、途方もない労力がいらすね。



シブイロカヤキリ

草を刈っていたら出てきた越冬中のキリギリス。枯れ草と同じ色です。いきなり枯葉の布団を剥ぎ取られて(?)ガタガタ震えていました。思わず枯れ草を被せたら驚いて飛び跳ねました。余計なエネルギーを使わせてしまっておめんね。釣巻さんに写真を見てもらいました。シブイロカヤキリ、後肢が短いのが特徴。暖地系の種で板橋区では10数年前から見られるようになったそうです。

冬になって生きものの気配がなくなったように見えるバッタ広場で、落葉や枯れ草の下で越冬している生きものがあります。枯葉にくっついて幼虫で越冬する虫、落葉の下で、サナギで越冬する虫、卵で越冬する虫、成虫で越冬する虫等々。私たちは彼らがどこにいるのかわかりません。冬の間バッタ広場の手入れでは、どこかにいる生き物達が寒さや外敵から身を守る茂みやヤブを残します。ボリュームとしては不十分ですが、ないよりまし。徹底的にならないよう、クズを除去し、ササを刈ったりします。

今年のトンボ池のオタマジャクシ対策

昨年、トンボ池に産卵したヒキガエルの卵は全部オタマジャクシになり、足が出て、あと少しでカエルになるところで、突然カルガモが毎日来て全部食い尽くしていきました。私には全滅したと見た後も、カモたちはしつこく水草の茂みに分け入りクチバシを入れていたので、どこかで生き残っているとは思えませんでした。ザリガニが出てくる前のこと。

去年は池の中央あたりの石の上におばあさん猫がいないなあと思ったら、カルガモがいたのです。猫はそれっきりいなくなりました。今年は番犬ならぬ番猫がいないと、産んだばかりの卵がカルガモに食い尽くされるかもしれない。渡辺さんが池をネットで覆って保護するか、疎開させたらどうか、と言います。

カエルの卵が食い尽くされるのも自然です。何年かに一度でも卵がオタマジャクシになり、数匹でも無事生き残ってカエルになるのが彼らの人生だそうです。それはそうですが・・・放置すべきか、卵を守るべきか思案しているところです。



冬のトンボ池—植物も生え、周囲には生きものもいる。
ヤゴやオタマジャクシが育つには課題が多い

環境なんでも見本市に出展します

日時：2月2日（土）12：00～16：30

2月3日（日）10：00～16：00

場所：エコポリスセンター

いたばし水と緑の会は、「身近な自然と友達になろう」を一緒に考えるコーナーです。

映画と講演会

日時：3月17日（日）12：30～16：00

場所：文化会館小ホール

映画：おだやかな革命（渡辺智史監督）各地で始まる「暮らしの選択」とその先にある未来の風景

講演：「消費者の声をカタチに！エネルギーを市民の手に！」

講師：吉田 明子氏（国際環境NGO FoE Japan理事）

参加費：1000円（学生・障害者は500円）

主催：3.11から未来をひらく会

問合せ：坂本（090-4618-1295）

活動のお知らせ

運営委員会：1月26日（土）12：30～13：30

2月23日（土）12：30～13：30

作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します（ラーメンしらかば）。

連絡先；坂本（090-4618-1295）

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

3月16日（土）の予定

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田（3969-7124）まで

1 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ

1月26日（土）10：00～11：30 トンボ池の手入れ（長靴必要です）

19日（土）に湧水の流入を止めます。

2月23日（土）10：00～11：30 バッタ広場クズ、ササ、外来種の抜き取り

集合は赤塚トンボ池前（板橋区立美術館そば）（予定を変更する場合があります）

雨天の場合は中止または延期します。連絡先：坂本（090-4618-1295）

2 トンボ池・城址・バッタ広場の自然観察会

日時：2月10日（日）10：00～11：30

3月10日（日）10：00～11：30

集合場所：赤塚トンボ池（板橋区立美術館そば）

持ち物：飲み物、あれば昆虫網、図鑑、ルーペ、双眼鏡

小雨でも実施します。トンボ池はいつも入れないフェンスの中も観察します。

3 日暮台公園樹林地の観察

2月は、環境なんでも見本市があるため、平日に変更する予定です（要連絡）

3月2日（土）10：00～11：30

日暮台公園前集合（連絡は坂本 090-4618-1295まで）

4 環境なんでも見本市（7頁参照）

日時：2月2日（土）・3日（日） 会場：エコポリスセンター

●ビオトープボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺（赤塚トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。

作業や観察会で身近な自然を発見できるのが楽しいです。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。